

ホタテガイ採苗速報

付着数は西湾で7,068個/袋、東湾で120,479個/袋

1 ホタテガイの付着状況

5月27～28日に行った第1回全湾付着稚貝調査結果は、図1、2および表1、2のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は西湾で7,068個/袋、東湾で120,479個/袋と、それぞれの平年値(過去10年の平均値) 89,230個/袋、418,574個/袋よりかなり少なくなっていますが、昨年のそれぞれの平均付着数、3,189個/袋、2,918個/袋より多くなっています。

稚貝の平均殻長は、西湾、東湾ともに1.09mmとそれぞれの平年値0.97mm、0.87mmより大きくなっています。

2 ムラサキガイ等の付着状況

ムラサキガイとキヌマトイガイの付着数は全湾平均でそれぞれ37,602個/袋、3,902個/袋とそれぞれの平年値45,921個/袋、106,336個/袋より少ない状況です。

3 ホタテガイラーバ等の出現状況

5月27日に陸奥湾9定点でラーバ予備調査を行った結果、ホタテガイラーバの出現数は西湾平均、東湾平均ともに23個/m³でした。

4 試験採苗器への付着状況

5月20～27日の7日間のホタテガイの付着数は、水産総合研究所の久栗坂実験漁場で336個/袋、川内実験漁場で332個/袋でした。

5 今後の見込み

(1) 付着数が少ない採苗器

袋替えをしない方が、数多くの種苗を確保できます。詳細は次ページにあります。

(2) 付着数が多い採苗器

付着数が多い採苗器は、稚貝の成長が悪くなり、稚貝採取が遅れる可能性があります。付着数にバラツキが見られるので、付着状況を十分に把握して間引きしましょう。

東湾で6月中旬には稚貝が確実に目で見えるサイズ(殻長2～3mm)になり、通常間引きができる見込みです。袋替えおよび間引き作業の注意点は3ページにあります。

(3) 付着数が10万個以上と非常に多い採苗器

6月上旬に目で見えるサイズ(殻長1～2mm)になる見込みですので、次ページの写真を参考にして早期間引きを実施してください。

通常間引きの詳細な時期については、6月10日に第1回臨時付着稚貝調査(沖側陸側それぞれ中層下層、合計4袋)を実施し、6月13日発行予定の採苗速報に情報を掲載しますので、参考にしてください。

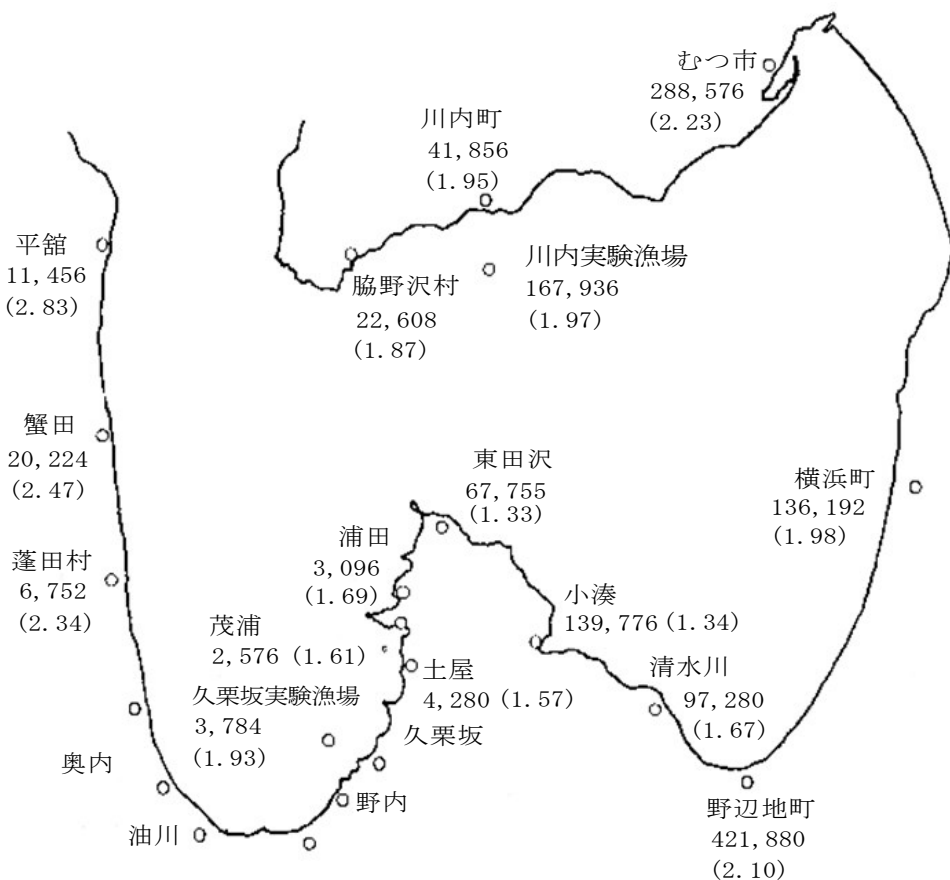


図1 漁協、支所別のホタテガイ付着数[単位: 個/袋(平均殻長mm)]

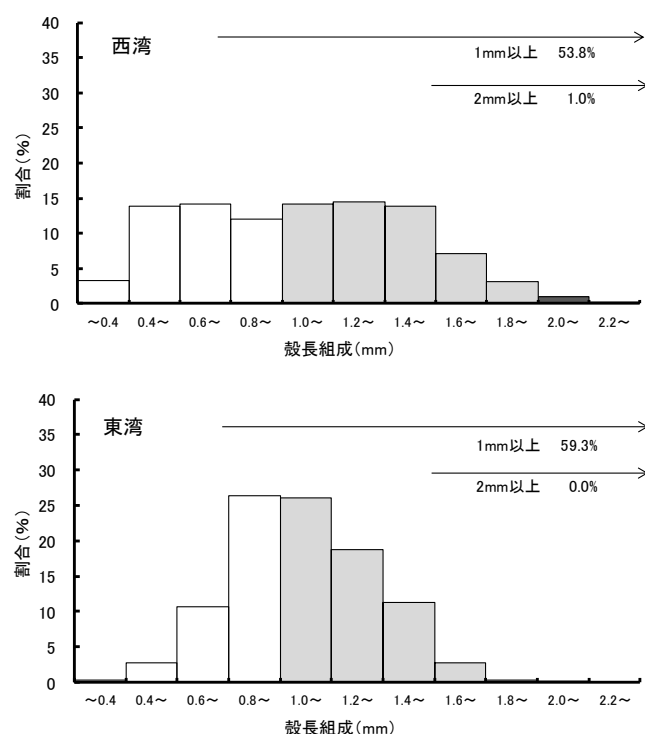


図2 ホタテガイ稚貝の殻長組成



6-1 付着数が少ない採苗器の袋替えの注意点

約35,000個/袋付着した採苗器の袋替えをした結果、図3のとおり、殻長4.5mm以上の種苗数は袋替えありが13,797個/袋、なしが29,426個/袋と袋替えなしの採苗器が、袋替えありの2倍以上の種苗を得ることができました。

付着数が少ない採苗器の袋替えは控えましょう。

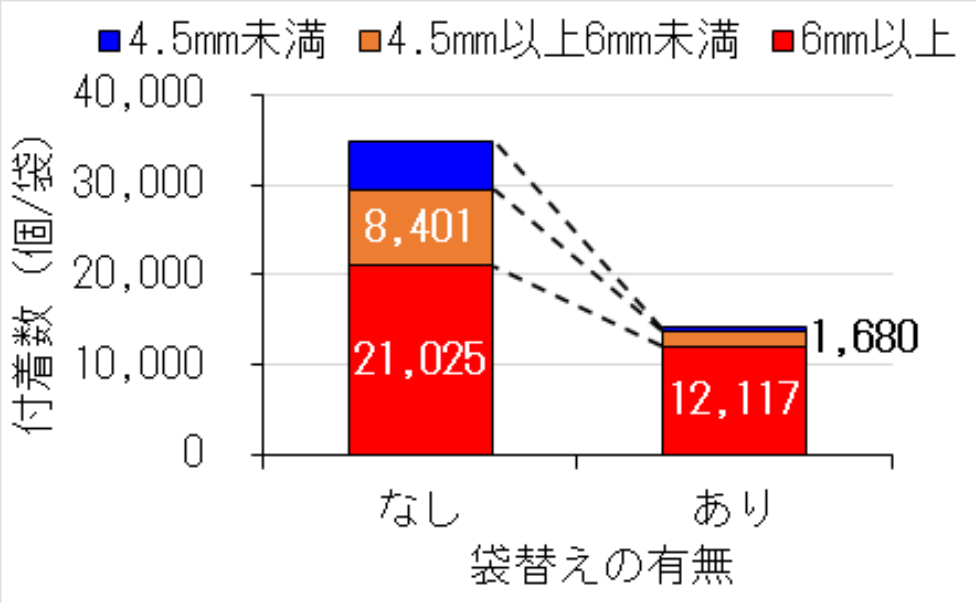


図3. 袋替えの有無別付着数
(赤：殻長6mm以上の種苗、橙色：殻長4.5mm以上6mm未満の種苗、青：殻長4.5mm未満の稚貝、図中の数字は種苗数)

6-2 目で見えるサイズ（殻長1～2mm）での早期間引きの目安



写真 流し網100 g 換算でホタテガイ稚貝を約2万個に間引きした採苗器
(平成30年6月17日 調査、平均殻長1.3mm)

※袋替えおよび間引き作業の注意点

- 採苗器の状況を十分に把握する（稚貝の付着数は地域、垂下水深、投入時期等によって異なる）。
- 稚貝へのショックは出来るだけ少なくする（間引きを行う場合は、流し網などの付着基質を上下に振るだけにして船べり等に叩き付けない）。
- 採苗器へ残す稚貝の数を自分の目で確認しながら適正にする（2万個程度になるように）。
- 作業後は、施設を安定させる。
- ヒトデの付着が見られるときは、結び目をよく洗う。